

Economic Indicators

発表日: 2019年9月2日(月)

景気動向指数(2019年7月)の予測

～基調判断は現状維持も、8月分で再び「悪化」に下方修正される可能性あり～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴 (Tel: 03-5221-4528)

前月差プラスだが、前月の急低下の反動に過ぎず

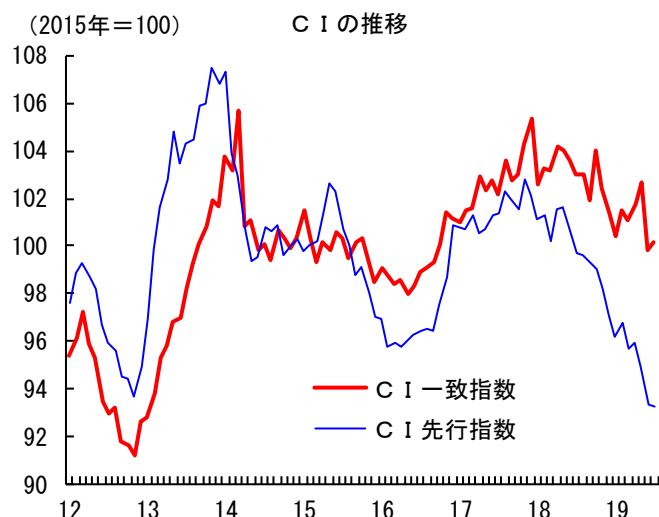
内閣府から9月6日に公表される2019年7月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+0.4ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や耐久消費財出荷指数、生産財出荷指数、投資財出荷指数など、生産関連系列により押し上げられている。もっとも今回のC I一致指数の上昇については、6月に前月差▲3.0ポイントの急低下となったことの反動の面が大きい。むしろ、6月の落ち込み幅の大きさに比べて戻りは非常に小さく、弱い結果とあって良いだろう。

基調判断は「下げ止まり」で現状維持も、8月分で「悪化」へ下方修正される可能性あり

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「下げ止まり」が予想される。5月分において、それまでの「悪化」から「下げ止まり」に上方修正されていたが、6月に続いて7月もその判断が維持される見込みだ。3ヶ月後方移動平均前月差は2ヶ月連続でマイナスとなるが、「悪化」への下方修正の条件である「原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降」かつ「当月の前月差の符号がマイナス」との条件は満たさないためだ。

問題は来月公表される8月分だ。悪化への下方修正条件の二つのうち、「3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降」基準の方は満たすことがほぼ確実であるため、もうひとつの「当月の前月差の符号がマイナス」条件が鍵になる。つまり、仮に8月が0.1ポイントでも前月差でプラスになれば「下げ止まり」で現状維持の一方、0.1ポイントでもマイナスであれば「悪化」への下方修正の条件を満たすことになる。C I一致指数と関連の深い鉱工業生産において、生産予測指数が、経済産業省による補正試算値で前月比▲0.7%となっていることを踏まえると、8月のC I一致指数が前月差で低下する可能性は相応にあると言わざるを得ない状況である。5月分で上方修正されたばかりの基調判断だが、早くも再度の下方修正リスクが出てきたようだ。

ちなみに8月分の景気動向指数の公表日は10月7日であり、まさに増税直後である。景気動向への関心が高まる時期だけに、仮に基調判断が「悪化」に下方修正されるようであれば、かなり注目を集める可能性があるだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2019年7月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。